

2019年度 放送番組審議会 議事録

(株式会社ジェイコム九州 福岡局)

日 時：2020年2月20日（木） 11:30～

場 所：株式会社ジェイコム九州 福岡局 3階役員会議室

出席者： 嘱託委員9名中8名出席（敬称略、順不同）

（会長）石井 幸孝

（委員）床嶋俊之、吉野嘉高、宗寿彦、原口弘美、佐伯道郎、木本紳一郎、
井芹美香

（ジェイコム九州 福岡局）代表取締役社長 徳田瑞穂、取締役 中川伸司、
福岡局局长 小森智幸、林剛史、福田宙、浅田明見

（ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部）統括部長 仲川圭、篠原有、
笠島貴之、岩中典子

【番組審議会議事公開】

1、開会挨拶等

（J:COM 徳田）

新型コロナウイルスが福岡で初めて市中で感染確認される中、お集まりいただき感謝申し上げます。

2019年度は、非常に特番の多い年だった。ラグビーワールドカップ関連のイベントも多く、スポーツ関連の特番が目立った。本日の審議では、レギュラー番組も含め、特番についても審議いただきたい。毎年この場でいただく有意義な意見を次の番組制作に生かしている。本日も有意義な意見をいただけるとありがたい。

（会長）

J:COMの使命や方針は、NHKや民放と異なり地域密着する話題に特化していると理解している。しかし、新型コロナウイルス問題のように全国レベルの話題になると、市民のためにも取り上げない訳にもいかない。どこまでがJ:COMの範疇ととらえるのか難しいが、本日も忌憚のない意見をお願いしたい。

2、放送番組内容について

- 1) 2019年度 コミュニティチャンネル 放送実績報告
- 2) 2020年度 編成方針案について説明

3) ど・ろーかる、J:COM LINK について

3、審議

1) 自主制作番組（レギュラー番組・特別番組）ダイジェスト DVD 視聴

2) 審議・意見交換

（委員）

全体的に前向きな取り組みをされている印象。イベント運営から番組制作・放送までできるのは J:COM の強みであると感じた。

番組「ふるさと Wish」については、通常は「他のテレビ局といかに差別化を図るか」を考え制作すると思うが、KBC とのタイアップという点が面白いと感じた。番組内容自体、我々が知らない情報も紹介されているので、ぜひ活用させていただきたい。

番組「デイリーニュース」では、ニュースの選定方法が気になった。この時期、全国的に話題になっていることに関連した豆知識となる情報も扱うと広がりがあるのでは。

（委員）

今年度一番インパクトがあったのは、KBC と連携した「ふるさと Wish」だ。KBC と連携することで認知度もあがり、大変よい取り組みだと思うので今後もぜひ継続してほしい。

地域スポーツ番組については、普段見ることができないようなスポーツを取り上げている点が J:COM の強みだと思う。今後も強化してほしい。

自治体ビジネスに関して、福岡市やラグビーワールドカップ関連など大規模な事業の受託は、企業として取り組みやすいと思うが、福岡市以外の自治体は、国の施策による交付金などを活用して、動画制作を行っているところが多い。そのため、地域との関係強化を図るのであれば、国の施策などに精通した方との連携が必要だと思う。SDGs 関連の取り組みも、メディアでの発信を絡めることが重要だと思う。それが地域との関係発展につながるのでは。

SNS について重要性を感じるのであれば、もっと強化する必要があるのではないかと。ツイート数などが中途半端と取られる数値では不利な印象を与える。SNS をやるのであれば、強化していくべきである。

（委員）

各区の自治協議会会長の集まりに参加したが、そこで博多区の小学生全員に安全マップを配布するとの報告があった。これからの時代、「ど・ろーかる」や「防災」の取り組みは、市民が安心した生活を送るために大変重要だと感じた。

（委員）

地域の方は自分たちの活動の情報発信の仕方に苦労しており、そこを手助けできるのが

J:COM の良さだと思う。(それを広告費などに変えていくのが難しさであり、課題。) 年々番組の幅も広がりレベルも上がっていると思うが、J:COM 福岡は“これが強い”がない。幅を広げすぎているのではないか。今年は“これ”と決めて、1 つに絞ってやっていく方法もあるのではないか。

リポーターのインタビュー技術が足りない。聞いていることに深まりがない。もう少し尺をとって、いいところをピックアップして編集してはどうか。視聴者は、聞きたいことがここでは聞けないと感じた時点でテレビから離れてしまう。そういう視点での番組作りをお願いしたい。

(委員)

ほかのテレビ局では取り上げないような番組が放送されていて、差別化はできていると感じた。

イベントを受託して運営をすることは、番組制作の上でもよいことだと思う。

ただ、番組ごとのターゲットをもう少し明確にしたほうがよい。

KBC との連携、企画としておもしろい取り組みだと思う。キー局との違いを出すことで、まだまだチャンスがあると思う。

(委員)

今後、地域情報については、ユーザー側が自分の地域の情報、とくに細かい情報を取りに行く pull 型のメディアが活用される時代が来る。(コロナウイルス感染症の話題を例に…範囲が広がると自分の地域の情報を求める)。その時にメディアとしてどう対応していくのが重要。

KBC との連携について、KBC がやろうとすることと、J:COM がやっていることがバッティングしないか懸念している。連携とすみ分けが今後の課題なのではないか。

もう一つの懸念が、情報の公共性をどう担保するのか。(BPO にて、地域放送局の地域密着番組が広告放送の疑いありと問題になったが) 地域密着・地域連携することで関係が深まり、適度な距離感が保てなくなると問題が発生しかねない。公共性のある情報を、どう担保していくか今後の課題。

(委員)

行政のサポートをよくされていると思う。今回のコロナウイルス対策についても、行政では、手洗い・咳エチケットなど基本的な情報のポスター掲示などを行っており、そのあたりのフォローを J:COM にお願いできれば、市民のためにもなると思う。

自治協団体も自立するために様々な活動を行っている。その中でホームページ作成のサポートや業務として行っていることも地域の方々のためになっていると思う。そこから営業ベースとしても広げられるのでは。

また我々の業界は、スポーツ少年団やそれぞれの競技団体にスポーツを支えていく役割を担っている。昔からよく J:COM には取材にも来てもらっているが、2020 年も引き継がれると聞き心強く思っている。

(会長)

地域密着や市民を主役にするなど、画面作りのテクニック的にも評価しているが、少し情報が幅広くなりすぎているのではないかと。もう少し突出した部分があってもいいのではないかと思う。

福岡はスポーツ大国なので、スポーツを厚く取り上げることはよいと思う。また、福岡は歴史や文化についても大変恵まれた街なので、来年度はぜひ取り組んでほしい。

福岡は流動的な都市であるため、福岡のことを知らない人が多く、新しい世代にも変わってきているのもっと福岡のことを発信する啓蒙的な番組があってもいいのではないかと。

3) その他

(J:COM 徳田)

使命感が 1 番大事だと痛感した。社会貢献、地域貢献のために何ができるかを考えながら進めていきたい。それを表す一つの方法として、コミュニティチャンネルがあると思っている。

4、閉会の挨拶

(J:COM 小森)

本日いただいた意見は、今後の番組作りに反映したい。特に NET 化が進む中、コロナウイルス対策のように時間軸で早急に対応しなければならないもの、歴史・文化振興のような時間に縛られないものなど、我々の中でどのように取捨選択し、反映していくのが課題。本日の意見をしっかり認識したうえで継続した取り組みにつなげたい。

今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

(終了)